

## 事例11

岡山県瀬戸内市邑久町公民館・岡山県立邑久高等学校

# こうこうネットワーク事業

## 連携の経緯



平成16年から邑久高等学校は、学校教育目標に掲げられた「地域に開かれた特色ある学校づくり」を重点目標に教育活動に取り組んできた。そこで、公民館は、瀬戸内市における「人づくり、地域づくり」を共有できる協働社会のしくみづくりを高等学校に提案し、約1年間の協議、検討、調整期間を経て、平成17年、「こうこうネットワーク事業」に関する教育連携の覚書を交わした。

平成18年、高等学校は、「ボランティア活動に積極的に取り組み、地域に貢献することができる人材の育成」をねらいとし、1・2年生を対象に「邑友タイム」を開設し、公民館は活動プログラムの提供や地域との調整窓口などを担うこととした。

## 連携事業の概要

本事業は、①高校と公民館が知恵と力を合わせ、協働社会のしくみをつくること（高公）、②連携や交流活動を通じて個人、学校、地域が煌めくこと（煌煌）、③連携や交流活動を通じて地域に孝行すること（孝行）、④こうこうだったねこうこうしようね（こうこう）をスローガンに平成18年度にスタートした。

公民館主催事業は、地元住民、高校生を対象とした学習を中心とする「地域ボランティア養成事業」と具体的な活動を展開する「ボランティア事業」の2本立てとなっている。

高校で開設した「邑友タイム」は、金曜日の7時間目に実施され、①～④が高校側の企画で指導者は教員、⑤～⑯が公民館側の企画で、公民館利用団体のメンバーや公民館職員が指導者となっている。このうち、高校の⑤～⑦は、公民館主催事業でもある。

この他に6つの事業で高校の活動と公民館の事業が一体化している。公民館ではそれらをボランティア事業（①～⑯）と呼んでいる。一体化した事業では、生徒が、地元の専門家の指導を受け、放課後、休日、夏季休業などをを利用して、地域住民と一緒に活動を展開している。一体化した事業とは、例えば、ホールマネジメントボランティア（公民館）とホールマネジメント講座（高校）、読み聞かせボランティア（公民館）とあったかおはなし講座（高校）などである。



# 岡山県瀬戸内市邑久町公民館

## 【施設データ】

所在地	岡山県瀬戸内市邑久町尾張465-1
電話	0869-22-3761
設置年	昭和58年
対象地域人口	20,000人
延床面積	2,728m <sup>2</sup>
設置状況	併設:邑久保健センター、邑久コミュニティセンター
URL	<a href="http://www.city.setouchi.lg.jp/">http://www.city.setouchi.lg.jp/</a>

## 【施設の管理運営等】

職員の状況	・館長（専任1） ・主任（専任1） ・社会教育主事（専任1） ・社会教育指導員（専任1） ・臨時職員（専任7・兼任1）
	協議会等 邑久町公民館運営審議会
予算額	維持管理費：45,591,000円 事業費：6,174,000円

## 連携の形態

本事業は、公民館と高校との共催事業という位置づけで連携が進められている。公民館は、この事業を推進するために、連絡協議会（公民館、学校、各団体等で構成）を組織し、事業実施の細部にわたる企画と調整を行っている。

高校では、生徒課長が公民館との窓口となり、学年主任が生徒に公民館プログラムを示し、生徒の希望を尊重しながら全プログラムへの割り振りを行っている。

公民館は、連絡協議会などを運営し、講座内容や講師設定調達を行い、高校側へプログラムを提示する。講師には事前に事業説明を行い、原則ボランティアとして依頼する。

## 連携の留意点

- 公民館は、本事業を実施可能とするために、高等学校と事業のねらいや目的を明確にし、単発的な事業の連携ではなく、高校生の成長や高校と公民館の連携事業のしくみも含めて考え、①ネーミングに由来するように4つの目標が達成できる事業形態をつくる、②地域の人々と多様な係わりを可能とする事業形態にする、③経験をとおして社会性を身に付け人格形成を図る、④できるだけ多くの生徒の参加が得られる講座プログラムを用意するなどを確認しながら約一年協議を重ねている。
- 公民館は、高校生の活動の場や内容をより豊かなものとするために、場の開発や情報提供を中心にコーディネートする。

## 成 果

- 事業後の高校生のアンケートやインタビューをみると、「地域の人と係わりを持つことが楽しい」「地域の中で自分の役割があると、市民として役に立つ存在となる」「自分たちでも地域で何かできる」など、高校生が地域での役割や存在価値に気づき始めた。
- 学校内では高校生と地域住民との交流が深まり挨拶が交わされ、学校外でも事業関係者と高校生との会話が増え、高校生と地域住民とのコミュニケーションの量が増えた。
- 公民館の各種行事などに高校生の参加が多くなり、公民館職員が卒業後の進路について相談受けることもある。
- 放課後に高校生が講師役となるパソコン講座では、高齢者と高校生との交流やふれあいの場が増えた。

## 課 題

- 邑久高校と教育委員会は、平成19年秋に市内公立保育園を新たに加え、全ての「保・幼・小・中・高」との協定を結んだ。今後、「こうこうネットワーク事業」をさらに充実させるために、ボランティア活動の場を創造し、この縦列の「保・幼・小・中・高」との係わりを深めていきたい。

